

行政情報

関東技術事務所の建設技術展示館と活動紹介

国土交通省 関東地方整備局 関東技術事務所

国土交通省関東地方整備局では、平成11年度から、建設技術に関する情報提供及び新技術の活用促進等を目的として、関東技術事務所構内（千葉県松戸市）に常設の『建設技術展示館』を開設している。

現在、建設技術展示館では、2年毎に展示テーマを決めて屋内展示内容の入れ替え（リニューアル）を実施している。本報では、建設技術展示館の活動状況及び平成30年5月17日に行った第14期リニューアルについて紹介する。

キーワード：建設技術展示館、担い手確保、生産性向上、リニューアル、出展技術発表会、実技講習会、Kenki card

1. はじめに

建設技術展示館では、公募で選ばれた新技術を中心に、建設技術の移り変わりや最近の動向等について紹介したパネルや模型、動画等を多数展示しており、技術者はもとより、学生から一般の方まで幅広い方々に、「見て」、「触れて」、「体感して学べる」場として活用されている（写真—1、図—1）。

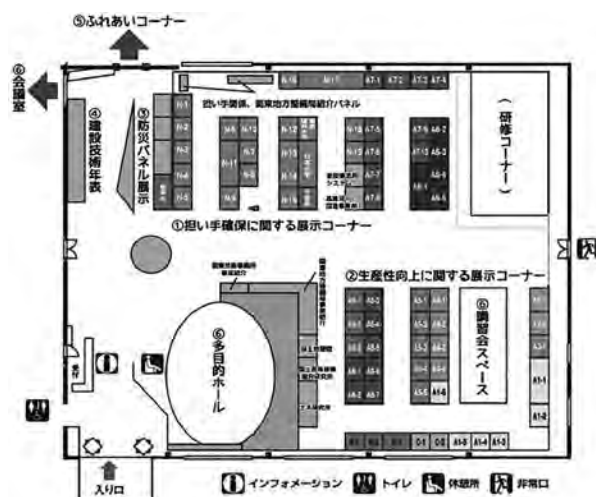
2. 第14期建設技術展示館

(1) 建設技術展示館概要

昨今、労働人口の減少と高齢化問題、景気の低迷による建設投資額の減少に起因する建設業界の担い手減少といった建設業界の危機的な状況が大きな課題となっていることから、この課題への対応として、「担



写真—1 建設技術展示館



図—1 建設技術展示館平面図

い手確保」への各種の取組み、社会資本の効率的・効果的な施工時の品質管理や維持管理の向上・労働者不足への対応をそれぞれ支援するために必要となる「生産性向上」に視点を向けたりリニューアルを行った。「担い手確保に関する展示」は19者、「生産性向上に関する技術展示」は43者、また自治体・大学等7機関から出展を頂き、産・学・官の三位一体となった展示となっている。

(2) 防災ブース（防災パネル展示）

関東技術事務所は防災拠点の役割も担っており、水害や首都直下型地震の啓発、東日本大震災や関東・東北豪雨、岡山県での水害など普及支援活動の特設展示をしている（写真—2）。



写真一2 防災ブース（関東地整の支援活動）



写真一3 出展技術発表会



図一2 Kenki card（排水ポンプ車）

(3) 災害対策車両

希望者には、水害や地震などの災害時、TEC-FORCEで活動する災害対策車両の見学を行っている（事前予約制）。また、職員手作りの「Kenki card」の配布も行っている（図一2）。

3. 建設技術展示館の活動

(1) 出展技術発表会

建設技術の活用・普及促進を図ることを目的として、建設技術展示館に出展している技術を行政・民間の技術者に出展者自らが紹介するもので、第14期は12回（年間6回）の開催を予定しており、継続教育CPD及びCPDSの認定を受けている（写真一3、表一1）。

(2) 実技講習会

測量者や施工管理者などの施工者または監督職員への技術者育成のためにi-ConstructionにおけるICT施工や維持管理技術など出展技術の講習会を実施しており、ICT施工に関してはTLS（地上型レーザースキャナ）やUAV（空中写真測量）、3次元データ測量など座学、実習の講習会を実施している（写真一4）。

無料で参加することができ、大変好評を得ていると

表一1 第14期（H30）出展技術発表会 開催（予定）

	開催日	開催場所
第1回	6月21日	さいたま新都心
第2回	8月23・24日	さいたま新都心
第3回	9月20・21日	関東技術事務所
第4回	10月18・19日	さいたま新都心
第5回	11月29・30日	関東技術事務所
第6回	1月24・25日	さいたま新都心



写真一4 実技講習会（ICT施工）

ころである。またCPDSの認定を受けている。

開催の案内については、建設技術展示館ホームページやTwitterに随時掲載している。

(3) 担い手確保に関するフェア

大学や高専・高校生を対象として、建設業の魅力を伝え、進路選択の参考になるようなフェアを出展者の協力により行っていく。

(4) ホームページの開設

これまでも関東技術事務所のホームページ内に建設技術展示館のページを開設し、情報発信をしていた



図ー3 建設技術展示館ホームページ(トップ)
「建設技術展示館」<http://www.kense-te.jp>

が、今回の第14期リニューアルを機に建設技術展示館独自のサイトを開設した。建設技術展示館の出展技術の詳細、出展技術発表会や実技講習会の開催案内、活動報告等の情報発信を行っている(図ー3)。

また、Twitterでも情報発信をしている。

(5) 団体見学

企業や自治体の社内研修等に本展示館を活用いただいている。

希望者には出展者によるブース説明を行っている。また、バリアフリー歩道の効果を車いすや白杖、高齢者疑似体験装具を使ってバリアフリーの必要性が体験できる他、レンガを使ったアーチ橋づくりキットを使用し、アーチ橋の構造や強度の確認も体験もできる(写真ー5, 6)。

(6) 夏休み子供体験教室

関東技術事務所が実施している建設技術、防災、環境などの取り組みを理解して頂くとともに、地域との連携をより深めることを目的として、小学生を対象と



写真ー6 バリアフリー体験(車いす)

した「夏休み子供体験教室」を開催している。途中開催を見送っていた時期もあったが、平成27年より再開している。

今年は7月27日に開催し、13回目を迎えることができた。約500名の小学生や親子連れにお越し頂き、橋づくり工作体験やセメント工作体験、高所作業車・キャリアダンプ乗車体験、また同時開催として公益社団法人土木学会のショベル模型による操作体験なども行われ、大変盛況に執り行われた(写真ー7, 8)。

例年夏休みの前半に行っており、来年度も実施する予定である。



写真ー7 ミニショベル操作体験



写真ー5 出展者ブース説明



写真ー8 アーチ橋づくり体験

4. リニューアル

(1) リニューアル式典

式典は、松戸市長、(一社)日本建設業連合会関東支部長、建設技術展示館審査委員会委員のご臨席を賜り、出展企業等の関係者約300名の方々が出席し執り行われた。

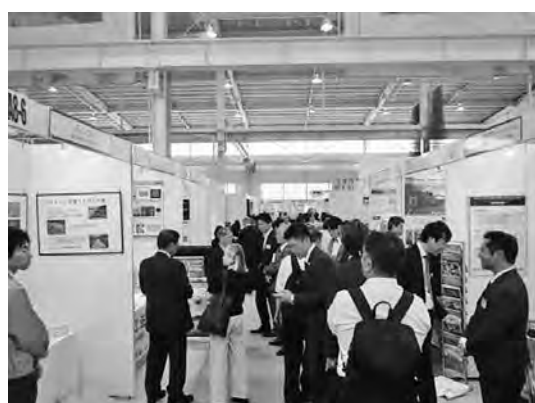
関東地方整備局 東川企画部長(当時)の挨拶に続き、来賓の方々にご祝辞をいただいた後、テープカットを行い、第14期建設技術展示館の一般公開を開始した(写真—9～11)。



写真—9 リニューアル式典



写真—10 テープカット



写真—11 屋内展示場一般公開

(2) 特別講演

立命館大学 建山和由教授により「建設技術の新たなステージ～i-Construction～」と題して、建設施工におけるICT導入の効果やICTの活用による生産性の向上、今後の展開等、ICT活用における建設技術の可能性について、事例や動画を用いてわかりやすくご講演頂いた(写真—12)。



写真—12 特別講演

5. おわりに

近年、社会資本整備の分野においては、インフラの老朽化対策、防災機能の強化及び建設現場の生産性向上等の課題に対応するため、建設技術の果たすべき役割は益々重要になっている。このため、建設技術展示館では今後も建設技術に関する情報提供、技術者支援を実施していくとともに、学生や子供たちといった次世代の担い手や一般の方々に対しても施設を有効に利活用していただけるよう機能の拡充、環境づくり等に取り組んでいく。

是非、建設技術展示館に足をお運びいただければ幸いです。

本展示館の活動状況については建設技術展示館サイトに随時掲載しているのでご覧下さい。

■開館日：火曜日～金曜日

(祝日・年末年始除く)

■開館時間：10:00～16:00

■入館：無料

■団体見学：要予約

「建設技術展示館」



<http://www.kense-te.jp>

Twitter

